医療安全全国共同行動から取り組んだ人工呼吸器の安全管理

大田原赤十字病院　医療安全管理者
伊藤千代子

趣旨

目的

平成２０年９月に医療安全全国共同行動に参加し、人工呼吸器の安全管理に登録した。呼吸器回路等の付属品のディスポ-ザブル化と看護師の教育に取り組んだので報告する。

方法

医療安全推進室が事務局となり、人工呼吸器の安全使用プロジェクトを立ち上げた。メンバーに医師（救急医・呼吸内科医）・看護師（重症ケア・感染管理認定看護師・呼吸療法認定士）・臨床工学技士・薬剤師を選出する。毎月１回の定例会を持ち、インシデントを活用し、人工呼吸器管理の現状と問題点を明確化した。定例会で方針を決め、それらを医療安全管理対策委員会、診療材料検討委員会にはかった。呼吸器の機種に応じたディスポ-ザブル回路の選定後、看護単位毎に勉強会を実施し、導入した。人工呼吸器の安全使用の教育として、看護部の院内キャリア開発ラダーと連動させた。業務への影響についてはアンケートをとり、確認した。

成果

ディスポ-ザブル呼吸器回路を導入し、看護師・看護助手、臨床工学技士、中央材料室職員のそれぞれの業務（洗浄・乾燥・滅菌・組立て）が削減された。それに伴い呼吸器の稼働が上がった。回路の組立てが看護師で可能となるため、急変時の迅速対応、トラブル発生時の早期対処が図られる。院内人材を活用した教育を行い、人工呼吸器使用患者の看護教育の構築に繋がった。

結論

医療安全全国共同行動が契機になり、幹部の理解と多職種で人工呼吸器の安全管理が推進できた。看護師教育では、医療機器の正しい取り扱いとして院内キャリア開発ラダー申請時の根拠となる。課題として現在、臨床工学技士が病棟ラウンドをしているが、今後は医師・呼吸療法認定士・医療安全管理者を含めた RST 活動を構築することである。

7月の実践報告後、医師・看護師・臨床工学技士・理学療法士による病棟ラウンドを本格的に開始できた。RSTメンバーと病棟看護師間で患者情報を共有し、問題を捉え、方向性を話し合い、患者への早期介入が可能になった。ラウンド結果は、記録に残し、主治医及び病棟看護師へコメントを返している。また、呼吸器の初期設定値、セットアップ手順、始業点検手順等を全人工呼吸器本体に表示した。このことにより、操作における確認ができ、また新人看護師の教育ツールとしても活用している。